



輝いている人

できる限りの貢献をし、
日本との架け橋になれば

青年海外協力隊として
開発途上国の経済開発や
福祉の向上を支援する青年
海外協力隊。その一員とし
て、派遣先の国の人々と生
活を共にしながら、国づく
りの手助けをしているのが
竹升義雄さんと近藤裕子さ
んだ。

「知らない土地で、知ら
ない文化にふれられる。今
から楽しみ」。今年3月か
ら2年間の派遣期間に、2
人は期待を膨らませる。

派遣先がパラグアイの竹
升さん。現地の小中学校で、
パソコンのメンテナンスや
情報処理の技術を子どもに
指導するのが任務だ。今
まで培ってきたパソコンの
ノウハウと経験を生かし、
「自分のもっているスキル
を存分に発揮したい」と意
気込む。「子どもたちが少
しでもパソコンに興味をも
てれば」とも。海外で働き
たかったという願いがかな

い、意欲十分だ。

カメルーンで農業に関わ
るコミュニケーショングルー
プなど連携しながら、過疎
の村の地域活性化の支援を行
う近藤さん。「日本の人は
アフリカについて詳しく知
らない。実際にこの目で見
たい」。そのうえで、「何が
必要か、何ができるかを考
え、魅力ある地域づくりに
貢献したい」と展望する。

アメリカ留学中に得た国際
感覚を生かし、活動してい
くその決意は固い。

「できる限りのことをし
たい。日本との架け橋にな
れればうれしい」と声を揃
える。「現地の人の、地域
を元気にしようとする気持
ちを大きくできれば」とは
近藤さん。竹升さんは「健
康にも気をつけ、子どもた
ちといっしょに元気にがん
ばります」と。2人の挑戦
は始まったばかりだ。

竹升義雄さん(宿 写真左)
近藤裕子さん(三輪 写真右)

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。



まちたんけん

ファミリーサポートセンター

ファミリーサポートセンターは、会員制で子どもの一時預かりや送迎、病気の子どもの預かるなど、子育ての援助を行っています。

一時預かりは、保護者の用事や病気などで突発的、一時的に子どもを預かってほしい場合に行います。また、保護者の代わりに習い事への送り迎えをしたり、保育園や幼稚園、学童保育に迎えに行き、そのまま預かったりすることもできます。また、子どもが病気で学校などの集団の場に行けない場合にも預かります。

対象は0歳から高校生まで。基本利用時間は午前7時から午後6時までです。利用料金は、月曜日から金曜日が1時間700円、基本時間外と土・日曜日、祝日は1時間800円、病気のときは1時間800円。同行は片道30分以内500円です。

入会には、入会金200円と年会費1000円が必要です。申し込みや問い合わせは、総社市ファミリーサポートセンター(☎94-5665、中央六丁目6番地102、総社ふれあいセンター内)まで。
問い合わせ こども課児童保育係(☎92-8265)



専門の講習を受けたファミリーサポートセンターのスタッフが子どもを預かったり同行したりします。上の写真は、同行で学童保育から習い事へ送ってもらう菅野未夢さん(総社)。下の写真は、一時的に子どもを預かるサポート。

絵本よんで!

『じゃあじゃあびりびり』
まついのりこ/さく・え 偕成社



今日のテーマ
「形状」

赤ちゃんには、持ちやすい小さめのボードブックがおすすめです。また、左の写真のように本の角が丸くカットされていたり、汚れがふき取れるようなものだと安心です。

絵本もおもちゃの一つ。投げたり、かじったりという時期もあります。大人といっしょにおはなしを楽しめるようになるころには、扱いにも慣れてきます。それまで温かく見守ってあげてくださいね。